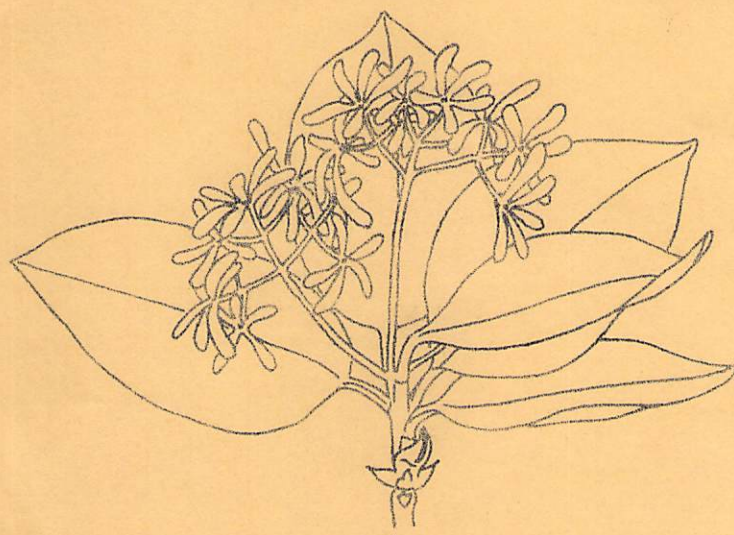


HITOTUBATAGO VOL. I NO. 1

# ヒトツバタゴ



---

長崎県生物学会対馬支部報

April · 1978

## 目次

ページ

・ 創刊にあたって	支部長：長瀬 節雄	1
・ セッコクの黄花と対馬唯一の交配種		1
大博（タイハク）について	岡部 虎男	2-3
・ 厳原町植物の概要（1）（有明山）	長瀬 節雄	3-4
・ 対馬のラン科植物目録	国分 英俊	5-9
・ 対馬産ヒトツバタゴの形態について	色上 益朗	10-14
・ 対馬のトンボ（1）	境 良朗	15-18
・ 近年長崎県内で観察した蝶類生態記録	江島 正郎	19-32
・ 支部より		33-34



## 創刊に当って

支部長 長瀬節雄

長崎県生物学会の対馬支部として、今回会誌の発行をすることになりました。対馬という、九州の中では特異な生物相をしめすこの島の中で、我々は日々自然とともに生活している。

先に県生物学会より“対馬の生物”という大著が出版され、対馬の生物相の解明に大きな役割りを果たした。対馬のおりなす四季の中で、日夜ともにする自然現象、および生物界のことにさらに目を大きく見開き、地の利を生かした研さんをつみたいと考えている。

会員も少数で、未熟な部分も多々あると思いますが、諸氏のご叱正、ご指導を得てがんばりたいと思います。

(ながせ・せつお 巖原中学校)

## セッコクの黄花と対馬唯一の交配種大博（タイハク）について

岡 部 虎 男

対馬に野生するセッコクは近年乱獲され、その数が減少している。しかし、人の手がとどかないところ、すなわち高木、あるいはガケの中腰などにはまだ相当数のものを見ることができ、自然実生でも増えていると思われるので絶滅するとは考えられない。現に、私の住家は厳原の中央に位置するが、庭のマキ、セッコクの鉢植え、古い石燈籠の上に自然に発芽し開花している。普通、野生しているセッコクの花は紫赤色から白色であるが、純白というのはまれで、ほとんどのものが花卉に赤色を残す。

今回発表するセッコクの黄花種は、昭和25年（1950）美津島町で大畑博氏が採集された野生セッコクの中から、偶然発見されたものである。黄花といつても極薄い黄色で、ちょうど秋の夜の月の色に近いので、私が明月（園芸名）と命名した。偽球茎は、はじめ緑色で、たてに紫赤色の点線が十数列あるが成長すると赤カッ色となる。満2年で花がさく。

あと一例は、私が満月と命名したもので、花色は前者とほとんどかわらないが草丈がわずかに高いようであり、花卉の先端がとがっている。これは別人により採集されたものであるが、産地および採集者名はわかっていない。このほかに、葉の変化種として黄霧輪、中透、白縞等発見されている。

セッコクの黄花については日本花卉園芸協会編「新花卉“日本野生ラン”特集第64号（1969）に古瀬光氏が“色変わりとして、黄色（杏色）花では富士山麓産および対馬産の2種しか見ていないが、いずれも草丈15cm前後の赤褐色茎で、前者は太く、後者はやや細く葉幅もいくぶん狭い。この2種は目ざめるばかりの杏色を呈する年と、にごつたクリーム色で終わる年が稀にあるが、それが何に起因するのか私にはわからない。”と書いておられるが、対馬産（明月）の採集者大畑博氏は、春にはやく咲くものほど色が濃いといつておられる。

私の観察では、その年の冬季気温に関係があるように思う。1977年は近年にない低温の年であつたが、花の色は例年になく濃い黄色であつたことから、寒さが長くつづいた年は黄色が強くなり、暖冬の年は杏色が強くなるのではないかと推察している。古瀬氏は長崎市で栽培されたものであり、対馬より平均気温が高いので杏色がつよく出たと考えている。

大博について

大博は昭和18年（1943）厳原町で大畑博氏によつて作出された。対馬の野生セッコクを母体とし、洋種 *Dendrobium nobile* Ldl を交配したもので、耐寒性と花



の美しさを目的に作出されたものである。草丈は25~30cm、花は大型で4.5~5cmで白花系に属するが、花弁の外ふちから内にかけて薄い紫赤色をほかし、萼弁の点は濃い紫赤色の斑があり、すつきりとした実に感じの良い花である。ただしセッコクのような芳香はない。大博という園芸名は、私が氏の名を永久に残すためにつけたもので、巖原では大博の名で愛好者に栽培されている。野生セッコクにくらべれば、いくらか耐寒性にとほしいが、室内、フレーム（無加温）で十分越冬し開花する。

さいごになつたが大畑博氏、古瀬光氏、セッコク愛好者に感謝致します

(おかべ・とらお)

### 巖原町植物の概要(1)

(有明山)

長瀬 節雄

有明山(558M)は町内で矢立山(649M)、竜良山(559M)に次ぐ高山で、親しみやすい原始林を有している。

山頂は広々とした草原であり、そこからみおろす眺望は対馬一といつても過言であるまい。

登山口としては八幡神社、万松院水源地、権現山、日掛部落からと4通りのコースがある。

有明山のアカガシ、イスノキ林のつくりを観察すると下図のようになっている。

